



続・産業医の覚書

著者：山田誠二 発行：産業医学振興財団 定価：1,575円(税込)

著者は、大企業の産業医として20年以上活躍していた。また、日本産業衛生学会をはじめ多くの産業保健関連の委員として活躍している。

本書は9章から成り、前後に随筆風の文章があり、真ん中は産業医としての経験談、あるいは産業医の職務に関する解説が入っており、読者は好きなページをめくって読み始めても楽しく読めるような構成になっている。

副題として、「変化する産業保健に向き合って」とあるように、昭和から平成へと時代の変遷にともない、産業医が求められる業務も多様化し、増

大している状況がよくわかる内容となっている。一方、著者は産業医としての出張などがあるときに、企業を訪問する前に、まずその街をマンホールに至るまで観察し、また街の史跡を好んで訪ねている。これは、うがった見方をすれば、時代による地域社会の変貌を探り、さらには労働者の健康および産業内容のありかたについては複眼的に考えようとする姿勢と思われ興味深い。

なお、本書は連作であり、既刊の「かけだし産業医の覚書」、「産業医の覚書」がある。いずれも本書と同じ産業医学振興財団発行であり、併読をお勧めする。

(加藤賢朗 (独)労働者健康福祉機構理事)



リスクマネジメントとしてのメンタルヘルス対策 — 現場における問題解決のポイント

編者：日本産業精神保健学会 発行：産業医学振興財団 定価：2,625円(税込)

ご周知のように、この10年でうつ病等の気分障害の患者数は2倍以上増加している。職域においてもメンタルヘルス関連の休職日数は、他のあらゆる私病や業務上疾病と比較しても桁違いに多く、この予防活動は企業にとって、もっとも大きな労働衛生上の課題の一つとなっている。ただし、メンタルヘルス対策は個々の労働者に対する医学的な対応だけで、必ずしも解決しない。事例ごとの的確な労務管理や企業風土および職場環境の整備も不可欠である。つまり、企業として、個別対応以外に全体活動をしなないとその解決は見込めない。このメンタルヘルス対策の中で、産業医をはじめとする産業保健スタッフや人事担当者が対応を誤ると、当事者だけでなく企業経営にも係わる大き

なりリスクが存在する。現に平成24年度の精神障害に係わる労災認定件数は475件と過去最高となっている。

このような背景の中、メンタルヘルス対策の著書は多いが、リスクマネジメントの観点から解説した著書は少なく、今回の出版は満を持してのものと思われる。また、執筆者の先生方も第一線で活躍するトップランナーの面々であり、実務担当者にとって、本書を熟読することで、日々のメンタルヘルス事例への対応にも大いに参考になると考えられる。特に本書が、実際の事例を細かく分析し、リスクマネジメントの観点から論じているところが非常に参考となる。産業保健職や人事担当者には、座右の書としてぜひお薦めの一冊である。

(伊藤正人 パナソニック健康保険組合

健康管理センター所長)